

第6913号

内外教育

ラウンジ

コロナ禍と大学生

○…新型コロナウイルス禍のため、多くの大学で、授業が遠隔になり、大学への入構も制限されている。そのため、大学生が対面授業を受けることができず、サークル活動も交友関係もなく、大変な不満とストレスを抱えている、と論じられることが多い。実際は、どうなのであろうか。大規模な大学生調査からその実態を見てみたい。

○…参照するのは、昨年10〜11月に全国30大学1万1028人から回答を得た「CAMPUS LIFE DATA 2020」(全国大学生生活協同組合連合会)。「学生生活は充実している」と答えた学生は74・2%で、1年前より14・6%減少している。学年差がある。「充実している」は1年生56・5%、2年生77・1%、3年生81・5%、4年生86・4%と、通常のキャンパスライフ未経験の1年生の不満は高い。2年生以上は前年とほぼ変わらない。上級生は、対面授業やサークル活動がなくても、大学生活の充足度は変わらないと感じている。

○…大学は、コロナ禍の中で遠隔授業が主になり(72・8%)、学生たちの勉強時間は増加している。授業や大学外の勉強時間の1日の平均は5時間21分と、前年より28分増加している。読書時間も1日32分と2分増加して

いる。「大学生活の重点」では「勉強・研究」(33・4%)が1位で、高い水準を維持している(40年前は19・5%)。

○…このように、大学の遠隔授業で、生活の中心が勉強になっている。これまでの大学生の生活が、授業に出席さえすれば私語をしてもスマホをいじっていても楽々に単位が取れたものが、遠隔授業になり自主的に勉強しない限り、単位の修得が難しくなっている。教室での友人との私語はできないが、ビデオ会議システムで議論はでき、友人関係は成立する。教員は一人ひとりにコメントを送るなど、学習弱者への配慮も増やしている。

○…1カ月当たりのアルバイト収入は、自宅生が3万7680円、下宿生が2万6360円で、前年よりそれぞれ3550〜7240円減少している。小遣いや仕送りも減っており、支出を切り詰めた学生生活を送っている。大学生に必須の「合宿」「留学」「旅行」「就職活動」は、大きく減少している。国や各大学の学生への経済支援が必要であろう。学生の気が掛かっていることとしては「就職のことが一番多い(42・7%)」。

○…このような学生の実態も踏まえ、今後の大学の在り方として、遠隔授業を工夫し、サークルや友人関係もバーチャルを生かし、学生が自主的に学び、卒業後のリモートワークなどデジタル社会に適應できる能力や資質を育てていくことが必要であろう。

(Q)



●四六判・198頁
●本体価格1400円(税別)

普通の教師が「普通」に生きる学校

モンスタ―！

ペアレント論

を超えて

大阪大学大学院教授
小野田正利[著]

スーパ―先生でなくても、カリスマ教師でなくても、普通の先生が「普通に頑張ることが、学校にとってはとても大切。その方法を教えます。」

小野田 元氣を出して先生が頑張れる秘訣を伝授！

- 学校と保護者のトラブルを回避するにはどうすればよいか？
- 後ろ向きにはならず、前向きに「コトの解決」をするにはどうするべきか？
- 豊富なエピソードとともに、トラブル解決のヒントが満載！
- 本書は、日々頑張っている学校の先生への「応援歌」！



時事通信社

時事通信出版局 営業企画部

東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル

TEL 03-5565-2155

<https://bookpub.jiji.com/>